

【 共 通 】

受検番号

令和五年度 入学考查問題（一般） 国語

*注意

これは問題用紙です。解答用紙は別にあります。解答は必ず解答用紙に書きなさい。
終了時間がきたら、解答用紙を裏返しにして室外へ出なさい。

加茂暁星高等学校

〔問題一〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

二〇一六年夏、東京の地下鉄駅のホームで盲導犬を連れた視覚障害者の男性が線路に転落し、死亡する事故が起きました。わずか二か月後には、大阪の私鉄で視覚障害者がホームから落ちて亡くなりました。ともに大きなニュースとして報じられましたが、同様の転落事故が起きると、毎回ホームドアの設置の遅れがクローズアップされます。視覚障害者に限らず、ホームからの転落はたびたび起きており、ホームドアがあれば防げた事故もたくさんあります。「欄干のない橋」とも呼ばれる駅のホームは、一歩間違えば転落の危険と、トナリ合わせで、視覚障害者の中には「ホームから落ちたのは、一度や二度ではない」という人がたくさんいます。このため、JRや私鉄各社は可能な範囲でホームドアの設置を進めています。

(Ⅰ)、ホームの構造上、備え付けが困難な駅もあり、すべての駅に設置するには膨大な費用がかかります。ハード面の改善は急を要しますが、設置費用が重い負担となつて運行会社へのしかかった場合、運賃が値上げされることもあり得るため、鉄道利用者も人任せにしてばかりはいられません。①現実問題としてすぐには改善できない以上、当面は知恵を出し合つて事故を防いでいくのが現実的でしょう。

(Ⅱ)、ハードに頼らないためには何をすればよいのでしょうか。この事故を機に「健常者がもつと積極的に視覚障害者に声をかけるべきだ」という気運が高まりました。互いに助け合うのは社会の本来あるべき姿で、費用をかける必要ありません。欧米では周囲の人が障害者に「危ないですよ」と声をかける光景は珍しくありませんが、東京のbコンザツしたホームを見渡せば、利用者の「歩きスマホ」が。オウコウし、障害者が点字ブロックの上を歩いても、気にとめる人はほとんどいないように見えます。そうした中で「積極的に声をかけよう」というキャンペーンを展開するのは意義のあることです。

でも、ちよつと立ち止まって考えてみてください。健常者が声をかけないのは、単に面倒くさかったり、スマホに夢中になったりしているからだけなのでしょう。世の中はそんなに冷たい人たちであふれているのでしょうか。背後には何か理由があるような気がして、私は何人かの有識者に意見を求めてみました。

ある大学の先生の直截な意見がストンと腹に落ちました。彼女は「気後れしているのは(X)ではなく、(Y)の側ではないか」と言うのです。「本当は障害者が視界に入っているのに、どうやって手を差し伸べればよいか分からず、たじろいでしまっている。それは健常者が障害者に接する機会を与えていない教育のあり方に問題があるからではないか」。

日本では、小さいころから健常者と障害者が日常的に机を並べる経験がほとんどありません。障害を持つ子どもを特別支援学級などに振り分けてしまうからです。欧米では障害児が特別支援学級ではなく、健常児と同じ教室で学ぶ共生(インクルーシブ)教育が進んでいますが、日本では両者が共に学ぶことへの抵抗感が根強く残っています。幼少期から②多様性に触れる機会を奪われ続けていることが、声をかけを阻む原因になっているのではないかとこの問題に新たな視座を示してくれるものでした。

大学の先生の意見を、抵抗なく受け入れられたのには理由があります。私が新人の時、先輩記者に目の不自由な人がいました。若いころは、敏腕記者だったというその人は、③後天的に視力が失われていく病氣にかかり、次第に目が見えなくなっていました。私が出会った時には、もうほとんど視力はありませんでした。

(中略)

出会つて半年ぐらいたったころでしょうか、最寄りの駅で点字ブロックの上を歩いている先輩を見かけました。両手を少し広げて周囲に人がいないか確かめつつ、すり足で少しづつ前に進んで行きます。彼は目が悪いことを他者に示す白い杖を決して持ち歩こうとはしませんでした。実際には目が見えなくても、自分が盲目だと認めたくなかったのでしょう。片手には必ず傘を持ち、それを杖代わりにして使っていました。

会社の同僚からも杖を持つように何度も言われていましたが、首を縦には振りませんでした。会社の人たちは困惑していましたが、私には④その姿がどこか気高いものに感じられ、点字ブロックの上で意識を集中している後ろ姿に、気軽に声をかけることができませんでした。少し距離を置いて、黙って職場まで後ろを付いて行きました。

話が少し長くなってしまいました。私は学齢期に視覚障害者と接する機会が一度もなく、先輩との出会いが人生で初めての経験でした。もちろん、彼一人に出会ったからといって、視覚障害者への見識が深まったとは思いません。ただ、⑤生身の人間を具体的にイメージできるようになったことで、遠い存在ではなくなりました。

その出来事から数か月後、先輩はホームから落ちてけがをしました。幸い命に別状はありませんでしたが、以降は傘を手放し、白い杖を持つようになりました。

人は出会ったことのない他者に、どこまで想像力を働かせることができるのでしょうか。本を読み、映画を観て、疑似体験した他人の人生を自らの血肉として人に優しくできたら、どんなに素晴らしいだろうと思います。でも、未知なるものに想像力だけで立ち向かうのはなかなか難しい。やはり、自分の目で見て、耳で聞き、体で感じる体験をどれだけ持っているかが、人の思考や判断を大きく左右すると思うのです。それは、⑥記者である自分自身への戒めでもあります。

(名古屋隆彦「質問する、問い返す」より)

問一、……a eの漢字は読み、カタカナは漢字に直しなさい。

問二、(Ⅰ)、(Ⅱ)に入る接続詞を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ では ウ そして エ しかし

問三、——①「現実問題」とあるが、本文における問題として適当でないものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 危険防止のホームドアをすべての駅に設置できていないこと イ 歩きスマホによるホームからの転落事故が、相次いで起きていること

ウ 駅における安全確保の工事費用に多額の費用がかかること エ 視覚障害者の転落事故が多く発生し、死亡事故にもつながっていること

問四、(X)、(Y)に入る語を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 健常者 イ 有識者 ウ 障害者 エ 両者 オ 記者

問五、——②「多様性に触れる機会」とあるが、具体的にはどのようなことを指すか、本文中の言葉を用いて答えなさい。

問六、——③「後天的」の対義語を答えなさい。

問七、——④「その姿」とあるが、誰のどのような姿のことか、具体的に答えなさい。

問八、——⑤「生身の人間」とあるが、これが表しているものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 想像上の健常者 イ 実在する健常者 ウ 想像上の障害者 エ 実在する障害者

問九、——⑥「記者である自分自身への戒めでもあります」とあるが、筆者がそう考える理由を次から選び、記号で答えなさい。

ア 他者に情報を発信する記者という職業は、経験が重要であるが、その経験は直接体験であることが望ましいと考えたから。

イ 記者の仕事の醍醐味は、膨大な情報を正確に伝えることなので、自分の知らない知識は人から必ず聞くことが大事だと考えたから。

ウ 視覚障害者など多種多様な人が混在している世の中で、主観的な考えを執筆することが、人々の関心を集められると考えたから。

エ 記者の仕事は、人々の判断を左右するような情報を世間に流すので、本や映画で知識を蓄えることを真っ先にすべきと考えたから。

問十、本文の内容に適するものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 筆者は専門家の意見を踏まえて、共生教育の研究をしている。

イ 日本は欧米などの諸外国よりもインクルーシブ教育が推進されている。

ウ 日本の教育の仕組みが、健常者の障害者への理解を阻んでいる。

エ 筆者は学生時代に障害者と交流し、知見を深めている。

〔問題二〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

本文は、物書きの父親桐山征人と、中学生の息子加奈太との一場面である。征人が朝起きると、リビングのテーブルの上に三者面談のプリントが置いてあった。征人は「学校で落ち合おう。二時までには着いてる。三者面談よろしくな。」と加奈太にメールを入れた。

A 「おう」

廊下にあるパイプ椅子に腰かけて、向こうからやって来る加奈太に手を上げる。これ以上やる気のない歩き方はないだろう、という歩き方だ。

B 「なんだ、気付いたのか」

テーブルの上に置いてあった、三者面談のお知らせのことだろう。

「ああ、気付いたよ。①残念だったな」

加奈太はそれきりなにも言わないで、三つあるパイプ椅子に、②征人からひとつ空けて座った。廊下の窓が開け放たれていて、セミの音が大きく聞こえる。風は入ってくるが、それでも暑い。

「夏だなあ」

「当たり前だろ」

③a 即座に反応が返ってきて、征人はとっさに加奈太を見た。ひとり言のつもりだった。征人の驚きを④b サツチしたのか、見る間に加奈太の顔が赤くなる。自分からの会話を待っていたのだと思い、⑤征人は申し訳ない気持ちになった。

「夏休みの宿題はあるのか」

「決まってんだろ」

「一人でできそうか」

I

「あ、ああ、そうだな。加奈太がやらなくちゃ意味ないよなあ」

「わけわかんねえ……」

II
セミの音が⑥c ヒビく。征人は辺りを見渡す。*リノリウムの廊下。清掃道具入れ。三十年前とほとんど変わらない風景だ。中学校の匂い。⑦d 窮屈な箱に押し込められた、思春期の少女少女たちの匂いだ。

「打ち合わせだったんじゃないのかよ」

「え？あ、ああ、うん、まあ、そうだ」

加奈太はそれきり黙っている。

「中学生が主人公の話を書いてくれたって」

「ダセえ……」

加奈太がうんざりしたようにつぶやいたとき、二年四組の教室のドアが開いた。男子生徒と保護者が出てくる。出てきたクラスメイトと加奈太が、互いに「よっ」と言葉を

d 交わす。

「桐山さん、どうぞ」

なから先生の声でしたので、腰を上げた。

担任の先生は三十代前半の数学担当の男性教師で、会うのは春先に家庭⑧e ホウモンがあつて以来だ。若々しく、生きるエネルギーに満ちあふれているように見える。

C 「よっ」

⑨今出て行った男子生徒と同じ調子で先生が言い、加奈太が軽く手を上げる。征人は深々と頭を下げた。

*リノリウム……亜麻仁油など天然素材から製造される建材。床材として利用される。

（柳月美智子「14歳の水平線」より）

問一、…… a s e の漢字は読みに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二、…… A s C の会話は誰の発言か。本文中から抜き出しなさい。

問三、…… ①「残念だったな」とあるが、何が残念なのか。自分の言葉で答えなさい。

問四、…… ②「征人からひとつ空けて座った」のは、なぜか。その理由を次から選び、記号で答えなさい。

ア 暑いので、わざと距離をとったため

ウ 感謝と敬意を示すため

問五、…… ③「申し訳ない気持ちになった」とあるが、それはなぜか。その理由を次から選び、記号で答えなさい。

ア 一方的に話してしまい、加奈太の機嫌をそこねてしまったから

ウ 本当は会話をしたいという加奈太の気持ちを理解していなかったから

エ 加奈太にみんなの前で恥をかかせてしまったから

問六、…… I

ア ちよつと自信ないなあ。手伝ってよ。

ウ やつてみなきゃ、わからないよ。

問七、IIの部分の表現の特徴を説明しているものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 体言止めを多用し、軽快なテンポを生み出している

ウ 省略法を用いて、読者に想像させ余韻を持たせている

問八、…… ④「窮屈な箱」について

(1) 「窮屈な箱」とは何を表しているのか。本文中から抜き出しなさい。

(2) この表現方法を次から選び、記号で答えなさい。

ア 倒置法

イ 体言止め

ウ 直喩

エ 隠喩

問九、…… ⑤「今出て行った男子生徒と同じ調子」とはどのような調子か。次から選び、記号で答えなさい。

ア 緊張してよそよそしい調子

イ 厳肅な改まった調子

ウ 普段の親しげな調子

エ ちよつとふてくされた調子

〔問題二〕 次の問題に答えなさい。

問一、次の文章はある文学作品の冒頭部分である。この作品について ①成立した時代、②作品名、③著者名を、それぞれ記号で答えなさい。

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらえて老をむかふるものは、日々旅にして旅を栖とす。

- ① ア 奈良時代 イ 平安時代 ウ 鎌倉時代 エ 江戸時代
- ② ア 万葉集 イ 徒然草 ウ おくの細道 エ 平家物語
- ③ ア 松尾芭蕉 イ 兼好 ウ 清少納言 エ 紀貫之

問二、次の①～④の空欄にあてはまる語句を次から選び、記号で答えなさい。

- ① こんな嵐の夜に（ ）来るまい。 ② （ ）うまくいっても、彼の機嫌はおらないだろう。
- ③ 今日は朝から（ ）体調がよい。 ④ （ ）彼女のせいだと思ひ込んでいた。
- ア すこぶる イ よもや ウ てつきり エ かりに

問三、次の文から、主語・述語・目的語をそれぞれ文節で抜き出しなさい。

私だけでなく彼も、高熱で動けなくなった彼女を、朝まで寝ずに看病した。